令和4年度　学校評価

伊予市立中山小学校　　令和5年2月

【評価基準】　A：目標を達成(80%以上)　B：おおむね達成(60%以上)　C：あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
仲間を大切にする子　徳	〇生命の大切さを自覚する道徳教育の推進	〇命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしている。 【目標値】 〇教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	〇身近で継続できる活動として、一人一鉢栽培での花の世話を呼びかけた。愛着が持てるように、花言葉や花の特徴、世話の仕方を全校放送で知らせたり、先生方の協力のもと、朝の時間に水やりや観察をするよう呼び掛けたりした。 〇各学期末に道徳振り返りカードを作成して、各学年に使ってもらうようにした。振り返りの項目の中に、生命尊重に関する項目を取り上げ、児童に意識付けさせるように工夫した。 〇中山小の児童は、日頃から、生き物や自然に親しんではいるが、今年度は特に、生命尊重について意識して活動することができたのではないかと思われる。	教職員アンケート	A	62	38	0	0
					保護者アンケート	A	23	73	4	0
					児童アンケート	A	61	34	5	0
		〇いじめの早期発見・早期対応・未然防止に努めている。 【目標値】 〇教職員・保護者の8割以上が肯定	A	〇月1回の心の健康調査や、それに伴っての教育相談を行っている。 〇職員会議の後に、児童の情報交換を行い、児童理解を深めており、いじめ予防や指導の修正等につながっていると思われる。 〇今年度は、いじめ認定事案は、5件だったが、5件とも早期に発見し教職員全員で対応、見守り等を行った。今後も未然防止、早期発見・対応に努め、児童が安心な生活を保障したい。	教職員アンケート	A	50	50	0	0
					保護者アンケート	A	9	79	0	0
					いじめ・不登校状況	いじめ 5件				
	学校関係者評価委員の所見	〇月一回行われている心の健康調査の内容が気になる。自分のことだけを問うような内容になっていないか。設問が周りの友達のことにも目を向けられる内容になっていればよい。 〇いじめの認知件数が5件あるが、「いじめ」の捉え方(定義)について再確認したい。 〇子ども同士の関わりにおいて、いじめの早期発見、早期対応、未然防止に努めている学校の取組がよく分かった。	学校の対応	〇心の健康調査の内容は記述式であり、本人の許可なく口外しないようにしている。また、内容についても「自分はどうだったか。」だけでなく、「よいことをしていた友達」「いけないことをしていた友達」という項目を設け、周囲に目が向くように工夫している。今後も継続していく。 〇インターネットを通じたものを含み、「本人がいじめられた」と感じたものをいじめとして報告している。様々なアンテナを張り巡らせ、どのクラスにも起こるものであるという認識の下、未然防止・早期発見・早期解決に今後も努めていく。						

※保護者・地域アンケートでは、「分からない」の項目があるため、合計が100%になっていない場合があります。

【評価基準】　A:目標を達成(80%以上)　B:おおむね達成(60%以上)　C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
仲間を大切にする子　徳	○人権・同和教育の充実	○豊かな関わりを育む異年齢集団活動が充実している。 【目標値】 ○異年齢集団活動を実施可能な時間数(月2回)に対して9割以上実施 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○縦割り班活動として、週に一度の縦割り班遊びや、清掃活動、運動会、がんばり遠足などを行っている。縦割り班遊びでは、高学年がリーダーシップをとり、遊びの計画や進行をして、仲良く遊んだ。 ○運動会では、同じチームとして協力したり、応援したりして一体感を強めた。 ○がんばり遠足では、高学年が低学年を気遣ったり、一緒にクイズやゲームに取り組んで楽しんだりした。異なる学年と交流することで、豊かな心情が育まれている。 ●様々な活動を工夫して行っているが、友達を思いやる気持ちや高学年が班のメンバー全員に心を配ることについては、個人差があるので、機会を捉えて指導していきたい。	教職員アンケート	A	87	13	0	0
					保護者アンケート	A	33	50	4	4
					児童アンケート	A	66	27	5	2
					異年齢集団活動(2学期)	合計　4　回				
		○友達に対して、思いやりのある言動ができている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○道徳科を中心として、学級活動、社会科、生活科等の実践で相手を思いやる心情の育成を図ることで、挨拶や言葉遣い、進んで声を掛ける態度などに変容が見られた。 ○思いやりポストを設置し、友達の思いやりの言動を集め、給食の時間の放送で紹介した。このことで、思いやりには様々な形があることが分かり、した側もされた側も嬉しい気持ちになることを感じていた。	教職員アンケート	A	13	87	0	0
					保護者アンケート	A	9	78	9	0
					児童アンケート	A	34	64	2	0
	○特別支援教育の充実	○児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を行っている。 【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上が肯定	A	○職員会等で、児童の実態や配慮が必要な児童についての共通理解を図ったり、特別支援教育に関する研修を行ったりしている。 ○必要に応じて個別の指導計画を作成し、日々の指導や切れ目ない支援に生かした。 ○伊予市特別支援教育巡回相談員(谷村先生)のアドバイスを受けながら、個に応じた指導に生かしている。学校生活支援員を配置し、切れ目のない支援対策を築いている。	教職員アンケート	A	50	37	0	13
					保護者アンケート	A	23	59	9	0
	学校関係者評価委員の所見	●「児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を行っている。」項目の教職員アンケートで、否定的な意見13%の詳しい内容を確認したい。 ○様々な場面で縦割り班活動を取り入れたり、思いやりポストを取り入れたりするなど、工夫をして異年齢集団での活動を充実している。今後も継続して欲しい。		学校の対応	○教職員としては、「もっとできる」という強い思いが、その項目を選択させたことも考えられる。教職員の母数が少ないのも原因ではあるが、今後も、児童一人一人をしっかりと見取り、個に応じた指導に努めていく。 ○今後も、異年齢集団での縦割り班活動を積み重ねていくことで、互いを思いやる仲間づくり、いじめを許さない集団づくりに努めたい。					

【評価基準】　A：目標を達成(80％以上)　B：おおむね達成(60％以上)　C：あまり達成できていない(60％未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
考え　表現する子　知	○確かで豊かな言葉の力を身に付ける指導の工夫	○自分の思いを相手にはっきりと伝えることができている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	○校内で、対話活動に重点を置いた国語科の研究推進を行ってきた。まず、自分の考えをまとめる時間を設け、それを書き留めてから話合いを行うことで、自分の意見を持って話合いに臨めるようにした。また、話しやすいように話形を提示し、語尾まで言い切るように指導している。 ●少人数の中で、互いの理解が深まったり、必要以上に気持ちを推し量ったりすることで、伝えることに消極的になりがちなのでしっかりと気持ちを伝える大切さを認識させていきたい。また、周囲の受容する態度も大切なので聞く力や態度についても身に付けさせていきたい。	教職員アンケート	B	0	75	25	0
					保護者アンケート	C	0	55	32	9
					児童アンケート	B	20	58	20	2
	○少人数を生かした学習指導	○児童には、発達段階に応じた基礎的な学力が身に付いている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○漢字・計算検定で9割以上の児童が合格(合格90点) ○自主学習ノートの活用回数(低：週3回以上、中週4回以上、高6回以上)	A	○漢字検定や計算検定に関しては、ほぼ目標を達成することができた。また、各学年に応じて、自主学習にも取り組むことができており、真面目に学習に取り組む態度が身に付いている。 ○本校独自の「算数ぐんぐん学習」や毎週1回時間を設けて実施しているワークを使った読解力問題への取り組みも2年目になり、読解力問題にも慣れてきた。 ○eライブラリーやEILSを使ってのデジタルドリルやデジタルテストにも慣れてきており、自分の学力を測る機会も増えてきている。 ○今後も引き続き、少人数のよさを生かして、個に応じたきめ細やかな指導を継続していきたい。	教職員アンケート	B	13	62	25	0
					保護者アンケート	B	9	54	32	4
					児童アンケート	A	57	39	4	0
					漢字検定	A	90点以上 学年平均90%			
					計算検定	A	90点以上 学年平均87%			
					自主学習ノート	A	学年平均100%			
		○家庭での学習にしっかり取り組んでいる。 【目標値】 ○家庭学習時間(低30分、4年以上は学年×10分以上) ○保護者・児童の8割以上が肯定	A	○目標は、達成することができた。家庭学習調べ週間の結果によると、自主学習や読書にも取り組み、家庭での学習時間は延びてきている。今後も家庭との連携を図り、家庭学習が十分でない児童には、個別に声を掛け、指導していきたい。	家庭学習時間	A	学年平均87%			
					保護者アンケート	B	14	59	27	0
					児童アンケート	A	100			0
	○協働的な学びの確保	○教師一人一人が「主体的・対話的で深い学びに向かう」授業づくりに努めている。 【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上が肯定	B	○特に国語科を通して「主体的・対話的で深い学び」に向かうための授業改善に取り組んでいる。4人程度のグループで課題について話し合う活動を取り入れた国語科の研究授業を、校内で複数回行った。 ○研究協議には全教職員が参加し、対話活動のよりよい指導方法について話し合った。 ○主体的に学ぶための授業の導入の工夫や、深い学びにつながるよう、学校生活の中で授業で学んだことを活用していく場面をつくっていくこと等を教職員が共通理解し、道徳科や社会科などの他の教科でも対話活動を増やし、授業改善に努めた。 ●対話活動を行うには、十分な時間の確保が必要である。単元構成の中で、適切に対話活動を位置づけて児童とともに計画的に授業を進めていくようにする。	教職員アンケート	A	13	74	13	0
					保護者アンケート	B	9	68	9	0
	学校関係者評価委員の所見	○今後も、1人1台端末を有効活用して、学力の向上に努めてもらいたい。 ○今後、少人数化が進んでいくと予想されるが、これまでどおり「対話的な活動」を大切にして、表現力の育成に努めていってほしい。 ○児童が少なくなっているのもあるが、一人一人への対応をきちんとしていて、今の学校の先生はすごいと感じる。		学校の対応	○少人数を本校の強みと考え、一人一人に応じた指導、個に応じた指導を継続していきたい。 ○1人1台端末の効果的な活用方法を研究し、児童の学力向上につなげていきたい。 ○「対話的な活動」の在り方については、今後も継続して研究を進め、表現力を向上させるとともに、何でも言える仲間づくり、タブレットの活用など様々な面から支援していきたい。					

【評価基準】　A：目標を達成(80％以上)　B：おおむね達成(60％以上)　C：あまり達成できていない(60％未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
やる気で頑張る子 体	○健康・安全教育の充実	○早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が定着している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	○毎月生活リズム・家庭学習調べを行い、実態把握に努めるとともに、保護者の方々にもご協力をいただいている。 ○朝食の摂取状況については9割以上の児童が毎日食べており、その他の児童については、週に1回ほど食べられない日もあるが食べる習慣のない児童はいない。 ●児童アンケートでは8割以上が肯定的であるが、保護者アンケートでは5割にとどまっている。自分がどのような生活をしているのか振り返りが十分でないのかもしれない。 ○今後も生活リズム調べを継続して実施し、健康によい生活習慣の定着に努めたい。	教職員アンケート	A	13	74	13	0
					保護者アンケート	C	9	41	46	4
					児童アンケート	A	36	48	14	2
		○児童は、健康管理に努め、毎日元気に生活している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○欠席0の日が年間80日以上	A	○手指消毒や手洗い、マスク着用などの基本的な感染症対策が身に付き、健康管理能力が着いてきている。 ○新型コロナウイルス感染症の影響は本校でも見られ、連続して出席停止となる児童も複数おり、欠席0の日は昨年度に比べて少ない。 ○新型コロナウイルス感染症に関する出席停止以外での欠席理由は少なく、元気に登校する児童が多い。 ●生活リズム・家庭学習調べでは、長時間ゲームをして遅く就寝している児童もおり、朝の登校がギリギリになったり、授業中に眠たそうにしていたりする姿もみられる。生活リズム調べを用いた個別の指導や保健だよりによる啓発を通して生活リズムの改善を図りたい。	教職員アンケート	A	25	75	0	0
					保護者アンケート	A	37	59	0	4
					児童アンケート	A	43	46	11	0
					欠席0の日	63日(12/15現在)				
		○児童は、食生活に気を付けて生活している。 【目標値】 ○保護者・児童の8割以上が肯定	B	○今年度は栄養教諭に複数回来ていただき、低学年には給食で提供するそら豆に関することや、高学年には献立のつくり方など食に関心を持つような授業をしていただいた。 ○給食ではほとんど残食はなく、嫌いなものもできるだけ残さないように食べている。 ●来年度以降も栄養教諭に関わっていただき、食に関する指導の充実を図りたい。	保護者アンケート	C	18	32	46	4
					児童アンケート	A	59	25	14	2
	学校関係者評価委員の所見	●早寝・早起き・朝ごはんについての認識が、保護者と児童とで結果ののずれが大きいようである。 ●生活習慣調査をしているということだが、児童の食生活について学校が課題としていることはあるか。 ●長時間ゲームをして、就寝時間が遅くなる児童がいるのが気になる。	学校の対応	○今後も、学級通信や学校だより等を通じて、「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を継続していく。 ○学校が家庭の食生活まで把握することはできにくい。家庭との連携を図りつつ、できる範囲で児童の食生活を把握し、食育を推進していきたい。 ○ゲームやスマートフォンの使用時間については、学校の指導だけではどうしようもない。様々な手段を用いて、保護者に啓発し、協力をお願いして、健全育成に努めていきたい。						

【評価基準】　A：目標を達成(80％以上)　B：おおむね達成(60％以上)　C：あまり達成できていない(60％未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
やる気で頑張る子　体	○元気な挨拶・返事・履物の整頓等生活習慣の定着	○進んで元気な挨拶ができる児童が育っている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童・地域の8割以上が肯定	A	●マスク着用や3密制限等により、挨拶が低調な面があった。 ○夏休みに行われた「伊予市いじめSTOP笑顔の子ども会議」で提案された「１４（いちよん）あいさつ週間」を２学期から実施した。挨拶週間後、挨拶のよかった児童を全校で投票し、挨拶名人を表彰して児童の意欲の向上に努めている。 ○児童有志によるあいさつ向上委員会を設立し活動を行っている。今後、挨拶の輪を家庭や地域に広げる手立てについて考え、実践していきたい。	教職員アンケート	A	13	74	13	0
					保護者アンケート	C	14	37	41	4
					児童アンケート	A	45	50	5	0
					地域アンケート	A	35	50	10	0
	○様々な体力つくり活動の日常化による個に応じた体力の向上	○児童は、発達段階に応じた体力が付いている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○楽しい体育科の授業実践や、運動会、持久走大会などの体育的行事などへの積極的・継続的な参加を通して、運動の楽しさを感じ、運動意欲が向上したと思われる。 ○高学年は、放課後の水泳練習や陸上練習を通して、個々の体力や目標に向かって努力する心の成長を図ることができた。今後も発達段階に応じた体力が身に付くように、体育の授業を中心として、外遊びの励行なども行っていきたい。	教職員アンケート	A	38	62	0	0
					保護者アンケート	B	45	23	32	0
					児童アンケート	A	59	32	9	0
	学校関係者評価委員の所見	●挨拶の様子について、保護者の評価が厳しい。 ○昨年度と比べると、感じのよい挨拶になったと思う。挨拶は元気のよさだけで判断するのではなく、「気持ちのよさ」が大切だと思う。登校の時よりも下校の時の方が挨拶が気持ちがよい。		学校の対応	○高学年になってくると、照れくさくなり親に挨拶する機会が減るため、厳しい結果となったのではないだろうか。挨拶は、「いつでも、どこでも、誰にでも、先に」という指導を継続し、家庭でも挨拶ができる児童を育てたい。 ○令和4年度3学期から、児童有志による「オアシス隊」を結成し、様々な取組に挑戦している。あいさつ集会を行ったり、啓発動画を作成したりするなどしている。今後も、よりよい挨拶への取り組みを継続していく。					

【評価基準】　A：目標を達成(80%以上)　B：おおむね達成(60%以上)　C：あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
学び続ける子　知徳体	○夢と希望を持ち、最後までやり抜く心の育成	○夢と希望を持ち、最後までやり抜く心が育っている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○学期初めには、どの学年も自分の目標を立てるようにし、学期末には振り返りを行い、キャリアパスポートファイルにファイリングしてきた。 ○運動会や持久走大会などの行事や、高学年においては、水泳や陸上練習に励み、やり抜く経験を積んできており、どの児童も自己肯定感が育ってきていると思われる。 ○今後は、学年便りやキャリアパスポートの持ち帰りをして、家庭と連携を図りたい。	教職員アンケート	A	38	62	0	0
					保護者アンケート	B	4	59	37	0
					児童アンケート	A	52	43	5	0
	○家庭と協働した学習習慣の定着と読書習慣の形成	○豊かな心と言葉を育む読書活動の推進がなされている。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○読み聞かせ等の読書指導を月3回以上 ○児童の読書量が1か月8冊以上	A	○児童の1か月の読書量（8冊）以上は達成した。 ○読み聞かせ等の読書指導は、読書ボランティアさんに定期的な読み聞かせを継続していただき、ほぼ達成している。 ○学校では、週2回の朝読書の時間、給食の後、課題が終わった残りの時間等、すき間時間を利用して読書量を積み重ねているが、行事等多忙な時期には、本をゆっくり読む時間の確保が難しい。 ●保護者のアンケート結果を見ると、読書量8冊は達成しているものの、家庭で、借りた本を読んだり、読書に親しんだりする時間が少ないと考えられる。 ○引き続き、新刊の紹介、月間多読賞の表彰、100冊達成者の紹介、読書deビンゴ、週2冊以上の読書、おすすめの本のコーナー設置など、児童が本を読みたくなるような環境を設定し、読書活動を推進していきたい。 ○教職員、保護者が一緒に読書に親しみ、児童に読書習慣を形成することができるよう協力していきたい。	教職員アンケート	A	87	13	0	0
					保護者アンケート	C	9	23	50	14
					児童アンケート	B	45	30	25	0
					読書指導の回数	A	2.4回			
					1学期からの読書通帳	A	1か月の平均 12冊			
	学校関係者評価委員の所見	●読書について、保護者の評価が厳しいのが気になる。何か理由があるのだろうか。 ●読書活動が、冊数ばかりを追い求めて、内容の理解につながらないという恐れはないか。 ●図書室の本の冊数が減っているのではないか。	学校の対応	○子どもたちは、借りた本を持ち帰ることが少ないため、保護者の評価が厳しくなったと思われる。中山小の児童も、家庭では、動画・タブレット・PCの閲覧時間が増えているのも事実である。親子読書を奨励したり、自主学習に読書を取り入れるなどして、家庭での読書量を増やすように努力する。 ○市会計でもPTA会計でも、図書費を準備しており、計画的に購入している。冊数は適切に保たれている。 ○国語科の学習と読書がリンクするような活動（読書deビンゴ）などの活動を継続していく。						

【評価基準】　A：目標を達成(80％以上)　B：おおむね達成(60％以上)　C：あまり達成できていない(60％未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
学び続ける子　知徳体	○郷土を愛する心を育む地域に根ざした学習活動の充実	○地域の人・自然・文化を生かした教育活動の展開がなされている。 【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定 ○地域体験活動を各学年学期に1回以上実施	A	○生活科や社会科の中で、地域の様々な場所に出かけて学習したり、地域の方から話を聞いたりすることができた。 ○がんばり遠足を行って、地域の豊かな自然を全校児童で味わったり、地域の方との温かい触れ合いを感じたりすることができた。 ○昨年度は行うことができなかった学習発表会を今年度は行うことができ、地域の皆様に子どもたちが元気に表現する様子を見ていただくことができた。 ○地域の社会活動を理解したり、豊かな人間関係を育んだり、美しい自然を味わう体験をしたりすることは、ふるさと中山への愛着を持つ上でも重要である。地域の方のご協力に感謝し、今後も活動を工夫していきたい。 ●感染症対策として、地域の方を学校に招いてご指導をいただくことが難しかった。今後の状況をふまえながら、引き続き、地域とのつながりを大切にした活動が行えるよう工夫していきたい。	教職員アンケート	A	25	62	13	0
					保護者アンケート	A	18	68	0	0
					地域アンケート	A	30	60	5	0
					地域体験活動	A	学年平均1.4回			
		○学校便り、学年通信、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。 【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定 ○毎月1回以上学校・学級便り配付 ○毎日1回以上HP更新	A	○目標は達成している。教職員と地域は肯定的な意見であるが、保護者の中には不十分だとする見方もある。 ○毎月発行の学校だより「はぐぐみ」は、地域の方にも配布しており、学校や子どもの様子がよく分かるとのご意見をいただいており、今後も子どもたちの様子を中心に伝えられるよう努めていきたい。 ○来年度は150周年記念事業の内容についても適宜伝えられるようにしたい。 ●ホームページの更新回数を増やしてほしいとの要望があった。毎日閲覧していただき、学校の様子を知るツールとして活用されているようである。現在約140回は更新している。今後もタイムリーで正確な情報の発信に努めたい。 ●学級通信の発行回数を増やしてほしいとの保護者からの要望があった。毎年同じように発行できるものではないが、できる限り発行できるように努めていきたい。	教職員アンケート	A	62	38	0	0
					保護者アンケート	A	23	69	4	4
					地域アンケート	A	50	50	0	0
					学校便り	月　1　回				
					学年便り	月　0.5　回				
					HP更新	月　20　回				
	学校関係者評価委員の所見	○コロナ禍3年目ではあるが、地域に出かけての活動は、地域とのつながりや郷土愛を育む点からも大切であると思う。何とか工夫して継続してほしい。 ○中山小学校卒業50周年の集まりは、コロナ禍のため今年も断念している。再会できるようになったら実施してほしい。 ○コロナ禍において、学校行事への参加について慎重になってしまう。そんな中、ホームページや毎月の学校だよりで、学校の様子を知ることができありがたい。		学校の対応	○コロナ禍において、今年度も交流や体験活動が制限されることがあった。それでも、昨年度よりは実施できた行事も増えた。今後も、感染防止対策を十分に行い、コロナ禍以前の活動に戻せるよう努力していきたい。 ●新型コロナウイルス感染症対策のため、地域の方を学校に招くことが少なかった。そのため、学校から遠のいてしまったと感じられている方もおられる。工夫して地域とのつながりを保っていくよう工夫していく必要がある。 ○地域の方にとっては、ホームページや学校だよりが、学校の様子を掴むよりどころとなっている。今後も、ホームページや学校だよりを通じて、タイムリーで正確な情報の発信に努めていきたい。						

【評価基準】　A：目標を達成(80%以上)　B：おおむね達成(60%以上)　C：あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 （重点目標）	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果			
							4	3	2	1
業務改善	○教育の質の向上と教職員の負担軽減に向けた取組み	○教職員は子どもと向き合う時間に集中できている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定	A	○87%が肯定的意見で目標を達成している。しかし、昨年度が100%であったことを考えると見直しを図らなければならない部分もある。 ○学級担任が学級の児童と向き合えるよう、管理職をはじめ、養護教諭や専科教員、生活支援員が協力体制を確立しているので、配慮を要する児童や生徒指導上の課題にスピード感を持って適切に対応することができた。 ○少人数のよさを生かし、休み時間等に個別指導を行うことができ、個に応じた対応ができている。	教職員アンケート	A	25	62	0	13
		○巡回教育相談員、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ等専門人材の活用と連携がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○100%が肯定的な意見で、目標を達成している。学校側の担当者との連絡調整も順調で、相談員等との連携もよく取れている。気になったことについては、すぐに管理職への報告・相談があり、児童についての情報共有もなされている。 ○相談員等から、直接学級担任にアドバイスしたり、担任が相談員へ指導方法や関わり方などの相談することで、個に応じた指導ができている。	教職員アンケート	A	38	62	0	0
		○教職員は自身の専門性が高まる研修に取り組んでいる。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○A評価ではあるが、否定的な意見もある。コロナ禍も3年目となり、様々な研修が対面形式で行われることになり、実際に顔を見ながらの研修の大切さを感じている。 ○学校長のリーダーシップの下、研修主任が中心となって校内研修の充実に努めることができた。児童の学力向上につながる研修を今後も行っていきたい。 ○ICT支援員の協力の下、1人1台端末の授業での効果的な活用ができた。ロイロノートの研修も深め、今後も教師自身のスキルアップに努めたい。 ●研修の中には、今後もオンライン形式で十分なものもあるように思う。主催者の考えによるところが大きいが、現場の意見を伝えていきたい。 ●指定校でなくなったため、人権・同和教育の研修が薄くなったと感じる。今後も持続的なものにしていく必要がある。	教職員アンケート	A	25	62	0	13
		○教職員は健康の保持とワークライフバランスの確立がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○87%が肯定的意見で目標を達成している。「かえるボード」を設置し、週一回の退勤日を設定したことで、業務の軽重・優先順位等を意識して日々の業務に取り組むことができた。 ●小規模校であるため、一人一人に対する業務量は多く、負担感はぬぐえない。通常の業務に加え、放課後の指導や感染対策もあり、教職員はかなり疲弊している。 ○明るく前向きで、健全な職場づくりを目指し、少しでも心と体のリフレッシュが図られるように努めたい。	教職員アンケート	A	38	49	0	13

学校関係者評価委員の所見	○通常の業務に加え、コロナ対策で大変だと思うが、先生方が疲れ切ってしまわないようにしてほしい。子どもの前に立つときには、笑顔でいてほしい。	学校の対応	○持続可能な教育活動を展開していくために、業務の優先順位や軽重を付けたり業務の再分担を行ったりし、また、休日における心と体のリフレッシュを図ることができるよう、管理職が積極的に働き掛けていく。 ○教職員一人一人が、働きがいや幸福感を持てるよう、、ワークライフバランスを心掛けた働き方改革を推進していきたい。	